

Earth Day Tokyo 2015 出展

4/18~19の2日間、東京・代々木公園で開催された『Earth Day Tokyo 2015』に出展された、RISING SUN ROCK FESTIVALの「石狩市場」の出張版。その一部としてブース出店しました。EarthDayとは、毎年4月22日を「地球の日」とし、この期間に世界各地で開催される環境に関するイベントです。東京近辺で働いているかつてのezorockメンバーも駆けつけ、のべ18名で、石狩で行っているプロジェクト「NINOMIYA」・RSRオーガニックファームの活動を中心に取り組みの紹介を行いました。



石狩の森の未利用材を活用したり、植木の補助活動を行うプロジェクト「NINOMIYA」。こうして育まれる豊かな森林養分は、海を豊かにすることにつながる、というストーリーのもと、石狩直送のカキ・ホタテセットの販売も行いました。

また、RSRの来場者が排出した生ごみがじゃがいもとして戻ってくるという「見える循環」に取り組む「RSRオーガニックファーム」は、栽培したじゃがいもをじゃがバターやフライドポテトにして販売しました。



福島県の子どもたちと自然体験活動 ふくしまキッズ北海道ボランティア

3/24~4/2の10日間、ふくしまキッズ2015春のプログラム北海道大沼コースにて活動しました。38名の福島の子どもたちと23名のボランティアが参加。前半は雪遊びが主でしたが、後半には雪が解け、草の上でも遊べるようになりました。また、低学年は道南地域での合宿・民泊、高学年は子どもたちで計画を立て旅に出るフィールドトリップに挑戦しました。最終日にはみんなで焚き火を囲みました。



都市の若者と森林をつなぐ プロジェクト「NINOMIYA」

薪割りの活動が始まっています！
昨年度は60㎡の作成だったところ、5月上旬ですでに約40㎡の薪ができました。また、白樺樹液でコーヒーを飲んだり、ウッドキャンドルを作って夜に楽しんだり、木や自然の魅力を感じられる時間をつくっています。参加者からは「思いのほか薪割りに熱中した」「火を眺めながら語り合ういい時間を過ごせた」とうれしい声をもらいました。



特集

石狩でまわす 小さな循環

RSRオーガニックファーム



代表の小言

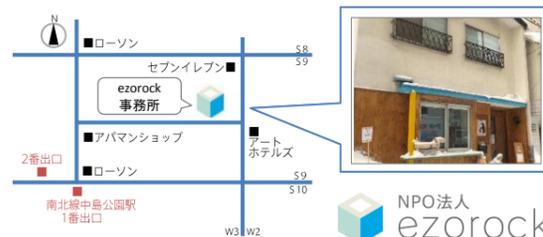
サンジュウシ

「3」人の集団というのは、ひょっとすると大きな力が発揮できる人数なのかもしれない。これまでエゾロックの一世代を作ってきたメンバーを思い出すと、3人というのがひとつのポイントになっているように感じている。1人では勇気が出ないことも、「3」だったらできそうな気がするようので、積極的にチャレンジしていこうとする。そして、お互いの存在を少しだけ意識し、切磋琢磨し、成長が促進される。3人というのは、ひょっとすると個性を引き出すには良い数字なのかもしれない。

そんなことを考えて個人的に「サンジュウシ」という愛称を付けて呼んでいた3人が、今年の4月から、地域おこし協力隊として、大樹町に1名、栗山町に2名移住した。元々は3人とも、漠然と教師を目指していたが、ふくしまキッズ北海道ボランティアなどを通して、地域づくり・自然体験活動に魅力を感じ仕事としてこの道に進むことを決意した。

地域づくりは決して簡単な話ではないが、これからの新しい生き方を作っていくには、大きな可能性があることも事実である。エゾロックでの2年以上で培った現場経験とネットワークを生かし、将来は、ぜひ地域のキーマンとなっていきたい。

草野竹史



石狩でまわす 小さな循環

RSRオーガニックファーム

■RISING SUN ROCK FESTIVAL in EZOがきっかけ

毎年夏に石狩で行われる北海道最大級の野外音楽フェス「RISING SUN ROCK FESTIVAL in EZO(以下RSR)」の3日間で、のべ6万人の来場者が訪れ、55トンほどのごみが発生します。その中で来場者が料理を購入したりキャンプをする際に生ごみの排出量は、約20トンほどです(すべて2014年のデータ)。これは、90リットルのポリバケツをまっすぐ260m並べるくらいの量です。これを燃やせるごみとした場合、燃やすために大量の燃料が必要となります。わたしたちは、この大量の生ごみを捨てずに生かすこと、ももとの捨てられる食材を減らすこと。それにより、50年後も気持ちよくフェスを楽しめることを目的に活動しています。



▲RSRで捨てられた生ごみ。鮭が丸々1匹捨てられることも。

■自分たちで生ごみをじゃがいもへ

この生ごみを捨てずに生かすために、RSR翌日に、池端牧場に運ばれた生ごみを牛糞と混

ぜ、一部を袋に詰めて、はるきちオーガニックファームの堆肥置き場へ移動させます。その後、2週間に1回スコップで攪拌しにいきます。これにより堆肥と酸素を触れさせ、発酵を進め、1年かけて堆肥にします。翌秋にはその堆肥を畑にまいて、じゃがいもを栽培し、収穫します。また、じゃがいもは、なるべく化学肥料や農薬を使わない有機栽培で育てています。



▲堆肥置き場での攪拌のようす。強烈なおいの中での作業。

■じゃがいもを通して来場者に呼びかけ、捨てられる食材を減らしたい

そしてRSRでの「オーガニックじゃがいもの配布」によって来場者の手に戻ります。この際、実際の堆肥や写真を使いながら、来場者がだした生ごみが食材となっていく過程を見せ、おいしいじゃがいもを食べてもらうことで食べ物大切さを実感してもらっています。2007年にこの活動をはじめてから、「いままでの生ごみで作っているんだよね？」と声をかけてくれたり、SNSで発信したり、畑に参加したり、サポート会員として

応援してくれる来場者もいて、思いが伝わっているを感じています。



▲毎年RSRでこのじゃがいもを食べることを楽しみにしている来場者も。

■「石狩」の中で完結することで、見えやすく

RSRの会場、池端牧場、はるきちオーガニックファーム。この活動に関わる全ての場所が石狩市内にあり、この地域内で、小さな循環が自立しているという大きな特徴があります。それにより、より来場者に伝わりやすく、納得しやすいメッセージとなっています。

■若者と農業との接点にも

2014年は3トンを取獲し、2015年は15aの畑で4.5~6tのじゃがいもを取獲予定です。畑での活動では、農家であるはるきちさんから、野菜についてや作業の意味などを教えてもらうことや、余った時間のお手伝いを通して、都市部の若者が構えずに農業と触れ合う機会になっていると思います。みなさんも、一度、石狩の畑に来てみませんか？RSR生まれのじゃがいもと一緒に、お待ちしております。

畑の1年

堆肥まき(4月下旬~5月上旬)



堆肥を畑にまき、じゃがいもが成長するために必要な環境整備をします。

種いも植え(5月上旬~中旬)



じゃがいもの種は実はじゃがいも！一定の間隔で種いもを植えます。

除草(5月中旬~6月中旬)



生育を妨げる雑草を手作業で取り除きます。この頃じゃがいもが土の表面を割って芽が出てきます。

花摘み(6月中旬~7月中旬)



葉が生い茂るようになってきれいな花が咲き始めます。しかし花が咲くと養分がじゃがいもにいかなくなるので、摘んでしまいます。

収穫(8月上旬)



約4か月間手塩にかけて育ててきたじゃがいもを、いよいよ収穫します。同時にRSRの来場者に配る準備をします。

RSRでいも配布(8月中旬)



この場所ですた生ごみが、じゃがいもとして戻ってくる日。約160名のボランティアとともに、来場者にじゃがいもを配布し、食べ物の大切さや循環の大切さを伝えます。

堆肥化(8月下旬)



ここからまた「循環」のはじまりです。生ごみを、RSRの翌日に池端牧場(石狩市)に運び、牛糞・稲わらなどと混ぜます。それをはるきちオーガニックファームに運び、翌年の堆肥の準備をします。

堆肥攪拌(9月~10月)



堆肥は日々発酵していきます。発酵を進めるために、発酵に必要な酸素を与えるため、スコップで攪拌します。



雪が降り始めたら、畑作業は春までお休み。そしてまた4月がきて、RSRに向けた1年が畑づくりから始まります。

はるきちオーガニックファーム はるきちさんメッセージ

今や一児の父となった私でも諸先輩からみると「若者」であり、先日「挑戦できるのが若者の特権なんだから」と言われた。確かに年齢を重ねるにつれ責任ある立場となり、なかなか挑戦出来なくなることを実感している。畑に来る若者には、農を通じて何かの挑戦をしてほしい。芋以外の収穫物があることを期待して。



小林卓也さん(通称はるきちさん) 石狩市で2004年より有機農業を営む。

共同企画 藤女子大学「食と農のサークルAgrimeal」

このじゃがいもをより多くの人に提供したいという思いから、2012年よりRSR会場内の特設ブース「石狩市場」に出店しています。石狩にある藤女子大学の管理栄養士を目指す学生たちと、共同で商品開発と販売を行い、2014年からはゼミ活動の一環から「食と農のサークルAgrimeal(アグリミール)」が設立。今後は「石狩市場」として他のイベントなどでも提供する機会を作ることができるとも期待しています。



写真左：RSR2014の石狩市場の様子
写真右：じゃがいもをカリカリに揚げ、石狩のホタテバター・ちゃんちゃん焼き・トマトのディップをトッピングして販売

RSRオーガニックファーム誕生秘話



RSR主催
株式会社WESS
長森雅人さん

まだアースケア(環境対策活動)という言葉が北海道には浸透していなかった10数年前。東京からの多くの支援者にお手伝いいただきながら、「いつか北海道生まれの団体ができるといいよね」と草野さんと語っていたことが懐かしいですね。当時はまだRSRオーガニックファームのような取り組みは想像もしていませんでした。多くのメンバーや支援者のおかげなんだと、君たちとお会いするたび感じ、刺激をいただいています。



初代
チームリーダー
たかべ

1番の思い出は、初めての年、2007年。RSR終了後、みんなでクソ暑い中、池端さんの堆肥小屋に生ごみをスコップで取りに行った事かな。匂いは今でも思い出す位強烈やったけど、その年のどのRSRの瞬間よりも、僕は興奮してアドレナリン全開でした。リサイクルを自分たちでやるって、口では簡単やけど、こんな大変なんかと実感したと同時に、やりがいも身に染みた瞬間やったなと思います。今も続いているのは、今まで関わってくれたすべての人の思いが繋がっているからやと思います。それが循環って事やと思う。みんなが畑で輝いた顔で土と戯れている事を祈っています！！